



抜歯しかないと諦めている人に 自分の歯を残す治療の選択肢広がる

自分の歯を残すための治療法の一つ「クラウンレングスニング（歯冠長延長術）」について、歯科医師に詳しく聞きました。

— 自分の歯を残すための治療の選択肢が広がっていると聞きます。

いつまでもおいしく食事を楽しむために自分の歯を残したいと思うのは当然のことです。しかし、虫歯や破折が歯茎の下まで達した場合は抜歯をするしかないと言われることがほとんどです。歯を残す場合、虫歯や破折を取り除き、それらを修復するために土台を作り、かぶせものをする必要があります。しかし健全な歯質が歯茎の上にないときちんとした土台を作ることができないため、抜歯を勧めることになるのです。条件を整えば、健全な歯質を確保する治療を行うことで、抜歯を回避することが可能な場合があります。

— 歯を残すにはどのような治療法があるのですか。

その一つが「クラウンレングスニング（歯冠長延長術）」という方法です。歯茎を切除して骨を削り、歯冠の長さを確保する歯周外科処置です（自由診療、16万5000円）。きちんと修復するためには健全な歯質が必要となります。歯茎の上に出ている歯の高さが1・5～2mm、厚さが1mm以上などの基準があります。この基準に沿った健全な歯質を確保することで、しっかりとした土台とかぶせ物を作成することができ、歯の寿命を延ばすことができます。そのためクラウンレングスニングを行うには、きちんとした検査と診断が必要です。また治療の繰り返しとまらないためには、生活習慣や姿勢、食生活も含めたリスク検査などで原因を特定するなど総合的治療が大切です。長く自分の歯で食べられる口腔環境を保つために、正しいケアを進めていきましょう。



サンフラワーデンタルクリニック

院長 岡村 俊之氏